

SLA 通信

〒460 名古屋市中区正木1-2-8
シニアルネッサンス財団内
発行人 山下 可子

第13号

目 次

1. 支え合って共に生きる	1
2. 「生き生き教室講演会」報告	2
3. 研究部会だより	4
4. 地域部会だより	5
5. 第2回全体研修会	7
6. 財団関係のお知らせ	7
7. 知ッ得コーナー	8

《支え合って共に生きる》

立春も間近になりました昨今、庭先では早くも梅のつぼみがふくらみ、水仙の花々がしきりに春を呼んでいるように感じます。

各地で風邪が流行しております。会員の皆様ご機嫌いかがでしょうか。

年度当初、SLA活動の活性化めざして、「ささやかでもいいから、仲間と共に活動を起こすこと」を心がけてきましたが、早くも年度のまとめの段階に入りました。

去る1月17日、拡大幹事会において、地域代表のみなさんから、人間関係に気遣いながら、それぞれの地域の特徴を生かして活動しておられる実態報告があり、今後の方向について協議致しました。地域活動を支えてくださる方々に心から敬意を表します。

「千里の道も一歩から」……我田引水かもしれませんが、今、地域の活動は人の組織化と、地域に根ざした自主活動が育ちつつあるように思います。そこでこの実績を次年度へつなげていくために、年度末の反省を是非、お願いいたします。

次に、研修部会はSLAとして社会の要請に対応できる資質の向上をめざして、来たる2月21日に、第2回全体研修会（7ページ参照）を開催することになりました。この研修会が地域部会活動とともに、車の両輪のように機能することを期待して企画いたしました。ぜひ、ご参加ください。

なお、北地域部会「生き生き教室」に参加できなかった方々のご要望に応じて、講演内容を次ページに紹介いたします。当日お手伝いくださった方々には、予算・時間等の不足を誠意でカバーしていただきましたことを、心から感謝いたします。 (山下可子)

第2回生き生き教室講演会

「老いの風景」 開催

参加者は126人と、大盛況

北地域部会主催の「第2回”生き生き教室”講演会」は、昨年(2019年)の12月7日、名古屋市中区の「ワーピアつるまい」で開催された。会員、会員外あわせて、126人が参加、会場はうしろまで人で埋まり、椅子が足りなくなるほどの大盛況だった。講演の様様を北部会の加藤奨美さんにまとめていただいた。



【ユーモアあふれる話し方で、介護体験を】

今回は岐阜県ソーシャルワーカー協会会長の渡辺哲雄氏が「老いの風景」と題して講演してくださいました。講師は現在、県立多治見病院医療相談室のケースワーカーとして活躍されており、医療現場で見聞きしたことや、相談業務を通して体験されている、様々な「老い」をテーマとして中日新聞に連載中である。

本日の演題「老いの風景」では、「高齢社会はまず初めに病院にやってくる」と前置きし「病院における老いの風景」を、医療ケースワーカーの視点でとらえた病院内でのお年寄りの失敗例を、軽妙なタッチで語られ、次のように分析された。

「失敗のほとんどは男性である。男性は定年退職すると自立が揺らぎ、片意地を張って生きているので、緊張して失敗が多い」

これに対して、女性の方は、年をとっても社会性があるので、友人も多く失敗も少ないのだという。

続いて「老いの風景」を書く原点について、家族の豊富な介護例を素材に、わかりやすい口調で体験を話してくださいました。特に老いた祖父母に対する温かい思いやりや、介助への優しい対応ぶりなど、家族間の細やかな心の絆に深く感動させられた。

渡辺講師は熱心な聴衆を前にユーモアあふれる語り口で、会場は終始にぎやかな笑いに包まれ、和やかな雰囲気の中に進められた。これらの介護体験のお話の中から、心にとどめたい言葉のいくつかを拾ってみた。

「介護は出口のないトンネルに迷い込んだようなものである」

介護する方も介護される方も共に疲れるものだが、介護される側としていい介護を受けた
いと思ったとき、絶対に覚えておいてほしい言葉がある。それは”おいしいね””ありが
とう””すまないね”の三つである。

「介護するとき、また話しかけるときは、回を重ねるごとに声を優しく、弱くしていく
のがコツ。声を大きくすると叱られていると思われる」

「介護とは目の前の人の世話をするだけでなく、己の心にかほどの愛がすんでいるか
が試される機会でもある」

「人間誰でもおむつの世話で一生を終わる。おむつをしないでいるときこそ（人により
長い短いはあるが）人の世話ができるときである」

「おむつは人間の精神のぎりぎりの砦である。老いておむつの世話になったとき、この
大切な精神の砦がガタッと崩れるときである。どんなに病んでも、排泄だけは、自分の手
でやるくらいの気持ちでいなくてははいけない」

渡辺講師は最後に公的介護保険法に言及され、「みんなで見守ってよりよいサービスが
受けられるよう立派な制度にしていきましょう」と結ばれた。

私たちは病気でなければ健康だと思いがちであるが、病気は、健康の間に準備されてい
るものだから、病気や介護について考えることは、どのように元気に生きていくのかの裏
返しでもある。

本日の「老いの風景」を他人事と思わず、自分の生き方に置き換えて、明日をいきいき
と生きていきたいものである。
(加藤鋸美)

【モノを言った部会員の口コミ】アンケートから

名古屋北部会講演会では、参加者にアンケートをお願いしました。

参加者126人中84人から回答をいただきました。ありがとうございました。

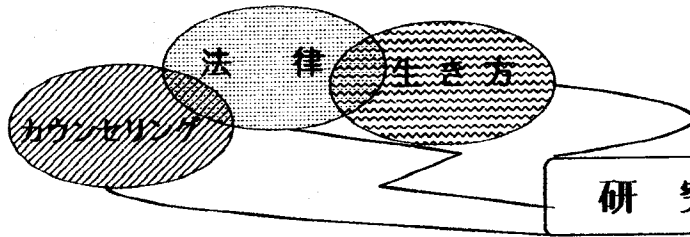
その結果をご報告します。男女比では、女性が84%と圧倒的でした。ついで年齢別
では50~60代が大半でした。40代以下と80代以上の参加者も各3人ずつあり、幅広
い年齢層からの参加を得ることができました。

また、参加の動機ですが、「知人のすすめ」が45人、「新聞を見て」が17人、「チ
ラシを見て」3人でした。今回は、整理券を発行し、部会員全員で集客につとめた結果、
こういう会では、なんとといっても口コミが大切であることがこの数字からも、うかがえま
した。

最後に感想です。

「ユーモアたっぷりの老いの風景に、ほろっとさせられたり、なるほどと実感したり、
あっと言う間に終わりました。」

「ともすればしめりがちな実体験の老いの風景を、客観的に話されましたが、聞きなが
ら先生の温かい人柄が偲ばれました。また、機会があればお聞きしたいと思います」など
と、100%好意的な感想が寄せられました。
(今泉治子)



第5回・6回・7回報告
(10月22日)(11月25日)(12月16日)

於：伏見ライフプラザ

身近な法律部会

第5回

参加人数：12人(男1人、女11人)
テーマ：名古屋市消費生活条例と私達の暮らし
講師：名古屋経済局企画係長・安田孝治さん
*名古屋市消費生活センター主催の「身近な法律知識」の講座に合流、今回の改正のねらいと信条例の主な内容について説明を聞いた。

第6回

参加人数：12人(男2人、女10人)
テーマ：介護保険制度の概要
講師：岡副善さん
*公的介護保険案の概要と、これまでの介護政策の推移と現状、介護保険の抱える問題点などについて聞いた。

第7回

参加人数：9人(女9人)
テーマ：高齢社会後問題と財産管理について
*青井幹事から提供された愛知県立大学・大曾根寛教授の講演資料のもとに話し合い。
*高齢者の財産管理には「成年後見制度が望ましい」とか、介護保険の適用に際しての問題点等。
(以上・尾関恵子)

カウンセリング部会

第5回

参加人数：10人
テーマ：生き甲斐と生涯学習
講師：神納慈子さん
*生きがいについて戦前から戦後の動きと、生きがい論の背景にあるもの、ボランティア活動、人間として価値ある生き方について。
(報告・木村秀子、水野三佐子)

第6回

参加人数：11人
テーマ：自分を知ると言うこと
講師：女性能力研究所所長・豊島紗千子さん
*自分を知るためのテストを行い、その後テストの解析。潜在的に持っている自分の性格と、他から見た自分を比べる、充実した人生を送るにはどうすればよいか、など。
(報告・水野三佐子、青柳よ志子)

第7回

参加人数：9人
テーマ：生きがいと生涯学習
講師：神納慈子さん
*自発的に学ぶ。知識を消化し知恵として社会に還元すること、生きるに値する人生とは、余生を有意義に送るなど。(報告・木村秀子、水野三佐子)



3月24日(火)3研究部会合同発表 午後1時30分～
今年度の3研究部会のまとめを発表。参加は自由です。

シニアの生き方部会

第5回

参加人数：
テーマ：
講師：

第6回

参加人数： 6 人
テーマ： 僧侶の役割
講師： 曾我幸文さん

第7回

参加人数： 6 人
テーマ： 健康
講師： 塩野高子さん

五感を働かせ、味わって食べる。身体の期待を裏切らないこと。
(報告 西田時子)

— 研修部から —

3月24日(火)

- * 身近な法律部会
- * カウンセリング部会
- * シニアの生き方部会

以上の3研究部会合同発表

時間：PM1:30～

場所：伏見ライフプラザ(予定)

名古屋市中区栄(伏見通りを南へ5分)

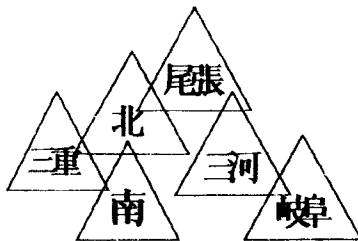
ライフプラザ伏見12階

名古屋市ボランティア情報センター集会室

(電話052-222-5781)

今年度の3研究部会のまとめを発表。

参加は自由です。



地域部会だより

研修会のお知らせ

尾張部会から

行政・福祉サービスをうまく利用するためには

日時：2月3日(火) 午前10時～午後3時

講師：佐藤勝人さん

会場：甚目寺町総合福祉会館1階会議室

(電話052-444-1177)

参加費：500円(昼食代を含む)

午前 …… 研修

午後 …… 節分なので甚目寺観音へ出かけます

*尾張部会以外の方々の参加も自由

南 部 会

- 第7回 10月18日 「東海しあわせ村」見学
第8回 11月29日 地域を拠点に「生き生き教室プログラム」を作成
講師登録をもとにリストを熱田生涯学習センターに提出
第9回 12月20日 「高齢者の財産管理シンポⅠ・Ⅱ」（一昨年学習）を読む
午後、財産管理シンポPARTⅢに参加
第10回 1月18日 「医療と保健と福祉のネットワーク・東海」の設立記念講演
に参加
第11回 1月24日 新年会 (報告・青井久子)

北 部 会

日 時：1月10日正午
場 所：梅の花本店（中区・栄）
新年宴会をかねて、いきいき教室講演会の反省会（参加人数18人）

*次回

日 時：2月14日午前10時から開催。
場 所：名古屋市総合福祉会館7階
テーマ：「名古屋市社会福祉協議会の主な事業について」
講 師：名古屋市社会福祉協議会総務部次長・相沢尚氏 (報告・外山晴美)

尾 張 部 会

日 時：11月7日 午前10時20分
場 所：海上の森
雲一つない晴天に恵まれ、一路、ものみの山の頂上へ。さらに大正池へ歩け歩
け、紅葉と枯れ木の林立が見事でした。(参加人数14人) (報告・小沢節子)

三 河 部 会

日 時：11月1日
場 所：みなみ福寿園見学と豊田市福祉サービスの案内
豊田市の村松係長から豊田市の福祉の概要、福祉サービスについて聞いた。
また、昨年9月に開所した特別養護老人ホーム「みなみ福寿園」を見学、広々
とした空間と明るい雰囲気、今後の施設のモデルケースとなると感じました。
(参加人数6人) (報告・寺岡亮二)

岐 阜 部 会

日 時：12月12日
第1回会合 (報告・野村昭子)

第2回全体研修会

日 時：平成10年2月21日（土）午後1時30分～4時

場 所：伏見ライフプラザ12F・ボランティア情報センター集会室

講 師：社会保険労務士（予定）

* アドバイザーに必要な情報、特に・年金・雇用保険・介護保険・人間関係など、一般に電話相談でよく登場する事例を対象に、役に立つわかりやすい研修を予定しています。

* 出欠の返事は2月10日（必着）までに、同封の返信用はがきでお願いします。

（研修委員会）

* 返信用はがきは、名簿作成に使用しますので、住所・氏名・電話番号など、必ず楷書で、また、郵便番号は7桁で、ご記入ください。

* 24日に予定していました研究部会はすべて21日に振替となります。ご了承ください。

財団関係のお知らせ

* 第2回全国SLA連絡協議会開催

1月24、25両日、東京・シニアルネッサンス財団事務所で開催。参加地区は関東、関西、中部、東北、中国、九州の各協会。出席者は各地区の会長、副会長ら計14人。

中部からの出席者は山下会長、深見副会長の二人。

審議事項は①SLA協会及びSLAの各地での事業、②協会共同事業、③SLA活動の新しい方向性など。

* 平成9年度「定年後の悩み110番」実施について

実施日時：平成10年3月7日（土）～8日（日）午前10時～午後5時

* シニア電話相談経験者を中心に、希望者に依頼する。ほかに弁護士、社会保険労務士の資格のある会員に極力、参加を依頼する。

* 審議内容及び電話相談の詳細については、2月21日（土）に行なう第2回全体研修会の折に会長からご報告します。

シニアに関する
知ッ得コーナー



〔名古屋のグループが「今、わが町の特養は」を出版〕

名古屋の老人施設研究会「サークル福寿草」が「いま、わが町の特養は」をまとめ、このほど小冊子にまとめた。名古屋及び名古屋近郊の特別養護老人ホーム75カ所へ調査票を送り、アンケートをお願いし、その回答をまとめたもの。50カ所から回答がきた。その他の地区（札幌や長野）からの回答22カ所分もあわせて、特養の性格や入居条件、施設の特徴などが写真とともに掲載されており、特養ってどんなところ？と素朴な疑問を持つ人には参考になりそう。A4版、146ページ、800円。

問い合わせは同会の横田さん（052-731-0230）へ。

〔夕焼けコールをご存じですかですか〕 ♪

（お年寄り向け緊急呼び出し装置） ♪

愛知県警と中部テレメッセージが共同開発したお年寄りの早期発見・保護のための専用ポケットベル。ポケットベル本体に連絡先シールを貼付、夜間でも見やすいようにシール部分に蓄光材を使用している。

もし近くで「ゆうやけこやけで日が暮れて……」のメロディが聞こえたら、老人が道に迷っているかもしれない。気がついたら連絡を。

愛知、岐阜、三重の3エリアで実施中。

—あとかき—

内容の豊富な会報をお届けしたいと、二人で、ない知恵を絞り続けた9ヶ月。一年が長いか短いかは、おそらく人によって違うでしょう。幹事として会のお世話をしている者にとっては、なんと長く（まだ3カ月ある！）、またいろいろなことがらをやってきたのかと、しみじみ感じるのですが、ひるがえって一会員からみれば、「幹事は何をしているのか」「もっと意義のある企画をやれ」となるのでしょうか。どちらから見ても歯がゆい状態、さらに財団との関係等々、その思いに拍車をかける……何とか、みんなで少しは満ち足りた気分を味わいたいものですね。

（広報担当・野村喜美子・二神道子）

1998年1月31日 第13号発行

発行者 山下可子
編集者 野村喜美子・二神道子

発行所 中部SLA協会 総務委員会 広報部会

〒460-0024
名古屋市中区正木1-2-8
シニアルネッサンス財団 内
電話 052 332 7883